

3つの問いかけで、意識を変えて働き方改革

(1) 阻まれる働き方改革の背景

「子供のためであればどんな長時間勤務も良しとする」という働き方は、教師という職の崇高な使命感から生まれるものであるが、その中で教師が疲弊していくのであれば、それは「子供のため」にはならない。

～中央教育審議会 答申～

(2) 危惧される現状

① 教師への影響

教師の過労死が相次いでいる。
精神疾患患者も毎年約5千人。

② 教育への影響

心身が疲弊して良い授業にならない。

③ 人材獲得への影響

「ブラック」な職場のままでは優秀な人材は来ない。

～中央教育審議会 答申～

(3) 問いかけ3つで意識を変えて

例...

運動会や修学旅行等の行事...
絵画や作文のコンクール...
毎週の週案配布...



明日の日課は、連絡帳にも書かせているから週案は必要ないかなあ。

みんなで行う職員作業...
毎年、各自で作る教材...
各担当がそれぞれ出すアンケート...

この職員作業は、何人必要かなあ。



教室の掲示物等...
登下校の見守り・交通指導等...
毎週の学級通信...



交通指導等は、地域や家庭にお願いできないかな。

それって**何のため**でしたっけ？

効率悪くないですか？

ちょっと**過剰**になってないですか？

引用資料：NITS独立法人教職員支援機構